

諮問理由 2 【学校教育】

近年、新しい学習指導要領のもとで「総合的な学習」をはじめとする様々な体験的な学習や課題解決的な学習が取り入れられ、子どもたちの「生きる力」の育成が図られています。しかし、一方で、物質的に豊かで利便性の高い社会の中であって、他人を思いやったり、感動したり、他人と協調したりすることのできる豊かな人間性、意欲を持って主体的に学ぶことができる力、たくましく生きる力などが必ずしも十分に身に付いているとはいえない状況があります。

こうした中で、大山町においては少子高齢化が進み、児童生徒数は年々減少し、教育に様々な影響を及ぼしています。子ども同士の切磋琢磨の機会が減少すること、学校や地域における一定規模の集団を前提とした教育活動（学校行事や部活動、地域における伝統行事等）が成立しにくくなること、人間関係・交友関係が固定化することで多様な見方・考え方が育ちにくくなること、良い意味での競争心が希薄になることなどにより、豊かで健やかな心の成長への影響が懸念されており、学校が活力を失うことなく十分に教育効果の上がる学校規模を維持することは非常に重要であると考えます。

また、学校施設についても、建築後、相当の年数が経過し、校舎等の老朽化が進み、改築を検討する時期を迎えて学校の適正な規模や配置等がどうあるべきか問われています。

未来を担う子どもたちのために、学習・生活の場としてふさわしい学校教育のあり方を検討し、学校関係者及び地域住民の方々とともに今後の学校づくりを進めていきたいと考え、以下の事項を審議会に諮問します。

諮問事項

大山町のこれからの学校教育のあり方について

- (1) 児童・生徒が減少する中での活力ある学校教育のあり方について
- (2) これからの中学校のあり方について